

読んで考える

公立中高一貫校 合格力講座

資料問題編 ⑧

高れい者が安心して生活できるためには



執筆・早稲田進学会(大島茂) イラスト・大野直人(エヌノート)

茨城県共通 2020年度 適性検査IIから抜粋 (一部改変)

挑戦!

次の□内の文章は、けいこさんたちが国語の授業で読んだ本、『奮闘するたすく』の一部です。この文章をもとに、けいこさんとひろしさんは、放課後、先生と話しています。

【文章の場面】
小学校5年生の佑は、担任の早田先生のすすめでデイサービス(通所介護)についてレポートを書くことになり、夏休みに、祖父が利用している「ケアハウスこもれび」へ通うことにしました。□内の文章は、佑が、「ケアハウスこもれび」を訪れた早田先生と一っしょに、インドネシア人研修生のリニさんから話を聞いているところです。

「この協定*で日本への受け入れが定められている職業は、看護師と介護福祉士のふたつですが、リニさんが、介護福祉士になろうと思ったのはどうしてですか？」
早田先生が次の質問をしたので、佑も急いで書きなぐる。
“どうして、かみごしではなく、介こぶくし?”
質問に、リニさんは少し考えるように首を傾げたが、やがて小さくうなずいた。考えをまとめたようだった。
「私は、お年寄りのお世話をしたい、思ったからです」
「お年寄りのお世話をしたい、と思ったんですか？」
佑は、思わず完璧なオウム返しで返してしまっただけでもわかってきたからだ。こもれびに来ているお年寄りは、体が不自由な人が多い。その人たちのお風呂やトイレを手伝うのは、力があるし、忙しそうだ。
ほかに、のどに絡んだたんを、ノズルのついた吸引器で取っているのを見たことがある。
「ズコズコズコッ」とすごい音がして、初めて見たときには、ぎょっとした。
見たことはないけれど、もちろん、おむつを替えることもあると思う。それは、正直に言うと、見たくなかった。足をけがして動けなくなった祖父が、いつかおむつをつけたことがある。母が手伝っていたけれど、佑は手を出せなかった。自分の祖父でさえ、嫌な顔ひとつせず、おむつを替える母は、えらいな、と思った。
それなのに、家族以外のお年寄りのお世話をしたいなんて。いや、実際にしているなんて。しかも、遠い外国まで来て。

けれどもリニさんは、ちっとも嫌そうではなかった。むしろ、誇らしそうだ。
「インドネシアでは、お年寄りはとても尊敬されているのです。だから、家族全員が代わりばんこに世話をします。みんながお世話をしたい。それがあたりまえ。お年寄りは、私たちよりたくさん生きている分だけ、かしくて物知りです。日本のお年寄りも、たいへんかしこいです」

※この協定…日本とインドネシアとの経済連携協定 (まはら三桃『奮闘するたすく』による)

けいこ：以前、総合的な学習の時間の授業で、高れい者施設に行ったとき、足の具合の悪いおじいちゃんの手を引いて、いっしょに食堂に行ったら喜んでくれました。

ひろし：し設の人の手を借りて、トイレに行っていた方もいました。
けいこ：わたしのおじいちゃんは去年転んで、歩けなかったとき、おばあちゃんがトイレやお風呂を手伝っていました。

ひろし：この本では、インドネシアのリニさんが、日本で、介護福祉士になろうと思ひ、「ケアハウスこもれび」で研修をしていました。

先生：そうでしたね。主人公の佑は、リニさんから話を聞いて、リニさんに対してどのように思ったと考えますか。

けいこ：佑は、□とわたしは考えます。
ひろし：介護の仕事は人手不足だと母が言っていました。

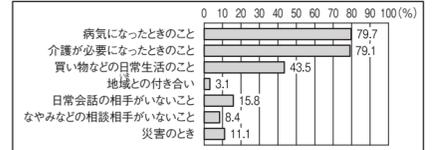
けいこ：人手不足を解消するため、介護を助けるロボットなどが開発されているというニュースをテレビで見ることがあります。

先生：総合的な学習の時間の授業で学習したように、高れい化が進む日本では、高れい者介護問題は、大きな問題の一つです。高れい者が安心して生活できるよう、どのような工夫をしていくことが大切だと思いますか。来週のコラムの授業で話し合えるように、資料を集めてきましょう。

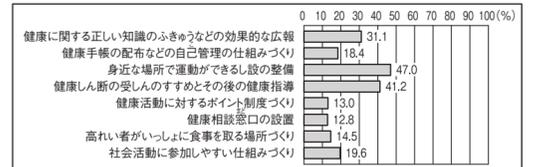
問題1 会話が成り立つように、□に入る内容を書きなさい。□には、□内の文章をもとに、佑がリニさんから話を聞いて、リニさんに対してどのように思ったかについて考え、50字以上70字以内で書きなさい。

問題2 資料1～資料3は、けいこさんが集めたものです。これらの資料をもとに、高れい者が安心して生活できるよう、どのような工夫をしていくことが大切だと思いますか。資料1～資料3の中から二つの資料を選び、それらを関係づけて、あなたが考える具体的な工夫を入れ、80字以上100字以内で書きなさい。

資料1 高れい期の一人暮らしで不安に思うこと(複数回答)



資料2 高れい期に必要と考える健康づくり、介護予防の内容(複数回答)



※厚生労働省による高れい社会に対する意識調査(40歳以上の男女3000人が対象)
※高れい期…高れいになったとき (資料1、資料2は、「平成27年度少子高齢社会等調査検討事業報告書」より作成)

資料3 介護を助けるロボットの長所と短所

長所 ・介護する人の負担を減らせる ・介護を適切に、効率よく行える ・介護される人の精神的負担を減らせる	短所 ・値段が高い ・操作を覚えるのが難しい ・人の手のぬくもりが感じられない
---	--

(介護を助けるロボットを使用している、介護し設の方の意見などをまとめたもの)

解説

問題1 佑の思ったことのポイントは、お年寄りの世話は「とっても大変」なのに「家族以外の世話をする」「遠い外国まで来て」しかも「誇らしそうだ」といったところにありますね。

問題2 問題では、高れい者が安心して生活するにはどのような工夫が大切かが問われています。まず、資料1で高れい者はどのようなことに不安を持っているのかを押さえ、その不安をなくしていくにはどうすべきかという流れでとらえるのがいいでしょう。

解答例

問題1 お年寄りの世話は、とても大変だと思っていたが、リニさんが、遠い外国まで来て、家族以外のお年寄りの世話をしていることを知って、すごいと思った。

問題2 (例1) (資料1、2) 一人暮らしで、病気になったときのことを不安に思うと多くの方が回答しているので、健康相談窓口の設置とあわせて、高れい者を定期的に訪問して、気軽に健康相談できるようにすればよいと思う。(例2) (資料1、3) 一人暮らしで、介護が必要になったときのことを不安に思う方には、介護を助けるロボットを体験してもらい、介護される人の精神的な負担を減らせるロボットの長所を理解してもらおうとよいと思う。

毎週日曜に掲載します。